

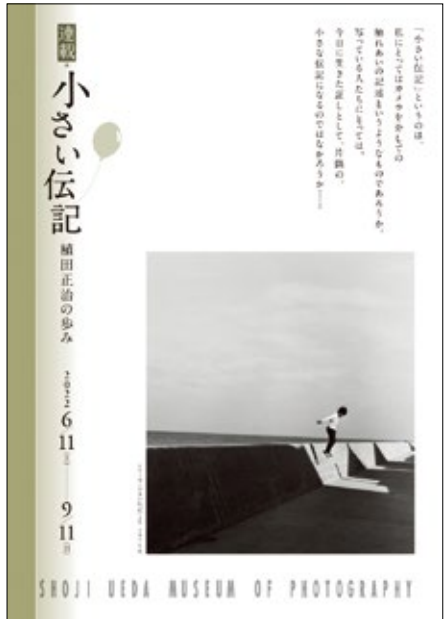
////////// A・B・C 展示室(2・3階) //////////



連載・小さい伝記 植田正治の歩み

2022年6月11日(土) — 9月11日(日)

「小さい伝記」というのは、私にとってはカメラを介しての
触れあいの記述というようなものであろうか。写っている
人たちにとっては、今日に生きた証しとして、片隅の、
小さな伝記になるのではなかろうか……
(『カメラ毎日』1982年1月号、「小さい伝記9」より抜粋)



「連載・小さい伝記」は、1974年から1985年まで実に
12年間、13回にわたって『カメラ毎日』誌に発表されています。
そのほとんどが6×6判のカメラ、ハッセルブラッドで撮影され、
ほぼ正方形の画面におさめられています。正方形の画面と
いえば、戦前、植田はローライフレックスというカメラを愛用して
います。この頃は、多くの場合トリミングを施しているのに対して、
〈小さい伝記〉では、あまりトリミングはされていません。植田の
意識に大きな変化があることがわかります。植田自身、このシリーズをカメラを介しての「触れあいの
記述」であると語っているように、意図しない偶然の出会いを、シンプルでストレートに記録したいと意図
していたのかもしれない。また、写真家として「今日を生きた証し」でもあるこの連載は、雑誌の休刊と
ともに途絶えましたが、写真家としての活動を続ける限り、植田の「小さい伝記」は完結することはなく、
その意味で、この伝記は写真家の歩みそのものでもあったといえるでしょう。

正方形の画面に閉じ込められた愛らしい山陰の子どもたち、素朴なたたずまいの人々、そして日常の
何気ない出会いなど、植田のユーモアや優しさに溢れるまなざしを感じながらご覧いただけること
でしょう。

【同時開催】1階D展示室コレクション紹介

植田正治物語 — 写真するボク —

植田正治の生涯にわたる写真活動の軌跡を紹介

第23回植田正治写真美術館フォトコンテスト 作品募集

- テーマ：自由。ただし山陰地方で撮影したものに限りです。
※山陰地方…鳥取県、島根県、京都府北部、兵庫県北部、山口県北部
- 部門：一般の部/18歳以下の部
- 応募期間：2022年7月16日(土)～9月19日(月・祝) ※当日必着
- 審査員：織作 峰子氏、川本 貢功氏、平間 至氏
※応募要項など詳しくは、ホームページをご覧ください。

伯耆町立植田正治写真美術館 TEL:0859-39-8000

■メール： bijyutsukan@houki-town.jp ■ホームページ： <https://www.houki-town.jp/ueda/>
■開館時間/10:00～17:00 (最終入館は16:30) ■休館日/火曜日(祝日の場合は翌日) ※8月16日は開館

町民の方は入館無料です。 ご来館の際は、町民無料招待券、または免許証など住所のわかるものを提示ください。